

昭和38年(1963年)

1月1日

編集 総務部秘書課
発行人 石井 繁丸
印刷所 上毛新聞社
(1部金2円)

おもな記事

- 市広報の夢 (1)
- アンケート (2)
- 市長あいさつ(2)
- 作文と体験記(2)
- 議長あいさつ(3)
- 市議会から (3)

広報まえばし

第273号 月2回(1.15日発行)

昭和35年7月14日
第3種郵便物認可

1月の こよみ

- ◇元旦・初もうで
- ◇商店初売り(2日)
- ◇前橋競輪 第1節 2・3・4
- ◇青柳大師(3日) 竜蔵寺町
- ◇前橋競輪 第2節 6・7・8
- ◇消防出初式(6日) 敷島公園
- ◇初市(9日) 本町通りを中心に
- ◇成人式(15日) スポーツセンター

表紙の写真

写真は雪の市立赤城林間学校です。林間をぬってソリを引く元気な子どもたち、学校を出て自らの林を歩きまわるといって、雄大な赤城の山々、ことごとそ、みんながこの山を登り、お互いに成長すること祈りましょう。



↑として保存してください↓

よろこびのある都市をつくろう

広報がみた初夢

人口60万都市を目指して、わたしたちの住んでいる前橋は、いま人口18万8千、世帯数4万2千、面積13平方キロ、この前橋が首都東京の衛星都市として昭和50年には高崎地区を含めて60万になると、この目標のもとに工場誘致、商業の振興、農業構造の改善など近代産業都市の建設を推進しています。計画工業団地は前橋が約70万坪、高崎が80万坪、合せて150万坪を造成して日本の隆中の雄都をめざしていることは全市民が知るところです。神奈川も千葉も山梨もおおわけているために一部海岸線が開けるだけで、それ以上の発展性は望めません。いやがうえにも関東平野の広い土地がやがて大きく飛躍するでしょう。資源にめぐまれた上州の産業や観光資源が大きなクローネアツプされます。本土や産業、それに近代的な産業の時代がいまそこまできています。

やがてくる時代のために、東京オリンピックや国体誘致のためにはありません。働く人々のために道を開き、川を護り、町をきれいにするために市費の多くをつかって、いま計画を立て、できるものから実施にうつしています。広報として市の当局にも市民にもいえることは、だれでもよいから、役に立ち、意欲や希望があったら取り上げてゆかねければ、よい市政も、より高度の生活もできないということです。働いて、働きのある前橋、人間としてなまねはならぬことをみんなが、18万8千の市民の一人一人が一つの歯車として回れば、そして理想に向えば、やがてくる時代、世代のために住みよい社会が約束されるでしょう。

愛される広報紙を作るために、広報は市政の鏡といわれます。本当です。広報に盛られていることが全市民に理解され、市民の心がこの紙面にみなぎる、市がその声をとりあげ、小さいことでもよいことは実施にうつしてゆけば、ますます広報紙が愛されるでしょう。市の千三百人の職員も市民の声を監視したり、見捨てるようなことは絶対にせず、それを生かすように最善をつくしておきます。

このころ、大きな計画を毎号のようにみなさんにお贈りしました。この計画もやがて実現され完成します。公園も道路も、学校も、農業も、商業も、幅広い福祉の仕事も、市民の一人一人が市長の年頭のあいさつのように「和」をもつて大前橋のゆく末を、未来を考えましょう。あなたが、わたしたちが考え協働してゆくとが市勢の発展を早めるのだという気持ちで。

町に花を咲かせよう。全市民の協力で最近町がとつともきれいになりました。しかし、もっともっと美しい花壇にしましょう。動いて心をいやす場所、家庭も、庭先も、道路も川も、公園も、公徳心を育てだれが来てはすかしくない町、それも、あと一歩です。へたなことをしてたらすうちに笑われます。だらしない日本人の「汚い」を一日も早く返上しましょう。広報まえばしがあなたの家庭にといたとときに思い出してください。きれいにしよう。「もっと」ときれいにしよう運動を、これは広報が先頭に立つてやるでも、みんな、負けないうてきてください。広報は市長のもので役所のものでありません。この紙面は全市民のものであるのです。

